

2 利用者はどのくらい？

名鉄によれば、にしがま線の令和5年度の利用者数は、約306万人。市民団体の活動や利用促進策の実施による効果もあり、平成21年度以降、30年度までは緩やかに増えていましたが、コロナ禍で大幅に減少しました。その後、回復傾向にあるものの、現在はコロナ禍前の9割程度の利用者にとどまっています。

令和5年度の利用者のうち、通勤定期が26パーセント、通学定期が50パーセント、おでかけ利用などの定期以外が24パーセントを占めています。



3 存続のために

民間企業の経営努力によるにしがま線の存続が限界を迎えているとして、名鉄は平成17年に沿線市町へ協力を要請。沿線市町などで組織する対策協議会が発足し、現在は、本市、西尾市、愛知県、国土交通省中部運輸局、名鉄で組織されています。平成22年以降は、年間で本市から約1億円、西尾市から約1億5,000万円の支援を行っています。

3～5年ごとに運行存続が繰り返され、現在は令和8年3月までの運行が決定していますが、4月以降もにしがま線の運行を継続するため、運行方式を検討しています。

年月	内容
平成17年11月	名鉄の単独経営が困難に。沿線市町へ協力を要請
17年12月	運行存続を検討するため、対策協議会が発足
22年3月	県・沿線2市2町の支援により、運行存続が決定(22～24年度の3年間)
25年3月	県・沿線2市の支援により、運行存続が決定(25～27年度の3年間)
27年10月	沿線2市の支援により、運行存続が決定(28～32年度の5年間)
令和2年3月	沿線2市の支援により、運行存続が決定(3～7年度の5年間)

市民の皆さんの足として利用されている名鉄西尾・蒲郡線(にしがま線)。実は、令和8年度以降の存続が決まっていないことを知っていますか。
にしがま線は、この地域になくってはならないもの。本市は、令和8年度以降の存続を前提に、西尾市や名古屋鉄道(名鉄)などと協議を続けています。

交通防犯課 ☎ 66・1156

にしがま線の これまでとこれから



名鉄西尾線の西尾駅から名鉄蒲郡線の蒲郡駅までの区間の総称です。全長27.3キロメートルで、駅数は13駅。「名鉄スカーレット」と呼ばれる定番の赤色をはじめ「ストロークリーム」や「チョコツートン」と呼ばれる列車など、カラフルな復刻塗装列車も運行しています。



にしがま線の路線図

1 にしがま線って？